常盤の翠

志・寛・錬

発 行
令和3年4月20日
鹿児島市立伊敷中学校

自ら意味を考え判断し 正しく行動できる伊敷中生

校長　河瀬 雅之

身体（からだ）のサイズより一回り大きな制服を身にまとい、新入生二百三十七人が、伊敷中学校に入学しました。つい先日までランドセルを背負って小学校に通っていた姿は少しも感じられません。**立派な中学生としての顔がそこにはありました。**式に参加された保護者の皆様も、新しい制服につつまれ凛々しくたちふるまう我が子の成長を頼もしく見守られたことでしょう。

人は時に、日々の成長とは別に、竹のようにある節目を持って一気に成長することがあります。一年生にとっては、入学式の一日が、その成長の節目の一日となったのではないでしょうか。

それから二週間、伊敷中ならではのリズムやルールに戸惑いながらも、一年生が新しい生活に馴染んでいく様子を毎日肌で感じています。

伊敷中の大きな特徴は、教師が教えるというよりも、先輩の行動を見て学ぶというところ。先日、朝作業の様子を見ていますと、一年生に、ほうきの持ち方から丁寧に教えている上級生の姿がありました。

新しい生活に慣れないうちは緊張したり、息苦しく感じることがあるかもしれません。それは、背筋を伸ばしたときよりも、背中を丸めたときの方が、力がはいり、きつい感じがするのと似ています。それはじきに慣れます。**戸惑いがあっても焦らずそれぞれのペースで中学校の生活に慣れていってほしい**と思います。

さてそんな中学校で、生徒の皆さんに繰り返し伝えていることは、**「自ら意味を考え判断し、正しく行動できる生徒になってほしい」**ということです。

「させられているからやる」「決まりだからやる」というのではなく、なぜそうするのか、その意味を考え、自分の意志で行動してほしいと考え、今年度から、校則も大幅に簡素化しました。決まりで縛られてやるのではなく、伊敷中の生徒としてどうあるべきなのか、考えながら行動する。そのことは、**社会に出たときに役に立つ人間力として、きっと皆さんを幸せに導いてくれるはず**です。

勉強も同じことです。「宿題があるからやる」「宅習帳を埋めなければならないから書く」というのではなく「自分はどんなところをもっと伸ばしたいのか」「自分はどこでつまづいているのか」など、**自分にとって何が必要なのかを考えて取り組む家庭学習にしてほしい**と思うのです。今年は先生方にも効果的な家庭学習について考えてもらい、皆さんの学習をサポートしていきたいと思っています。

生徒会スローガンは**プライドオブ伊敷「昨日の自分を毎日超える」**です。たとえそれが一日1ミリの成長であったとしても、中学校の3年間では、1メートル以上、50年後にはビル7階もの高さになります。**それだけの高さになれば、また周りの風景も違って見える**ことでしょう。

今の自分をこの節目の季節に、大きく成長させてみましょう。**竹は節からのみ芽を出す**のです。我々大人も、子供に負けず、日々成長し続ける大人でありたいと思います。

新任式

十二名の新任の先生を迎えました

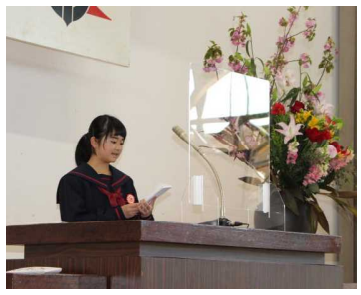
四月と言えば出会いの季節。今年度もやる気に満ち溢れた十二名の先生方が伊敷中学校に決まり不安な気持ちもありますが、それ以上に、これから伊敷中学校の生徒と一緒に勉強をしたり、部活動をしたりするのが楽しみです。」とあいさつしました。

伝統ある伊敷中学校のために精一杯頑張ります。どうぞよろしくお願いします。

第七十五回入学式

少し肌寒さが残る四月六日、今年も237名の新入生が入学しました。今年度も昨年度に引き続き、コロナウイルスという大きな壁のため、縮小開催となりました。在校生とともに祝福してあげることができない寂しさがありましたが、そのようなことを気にしていたのは、我々教職員だけだったのかもしれません。新一年生はどの子も、久しぶりに級友に会えた喜びとこれから始まる中学校生活への期待に、満面の笑顔を見せていました。

式では、新入生を代表して、小畑三佳子さんが新入生誓いの言葉を述べました。小畑さんはその中で、「去年、私たちの前に新型コロナウイルスという大きな壁が立ちはだかり、当たり前のことが当たり前にできなくなり、日々の学校生活のありがたさを身に染みて感じました。今年も我慢の多い毎日になるかもしれませんが、限られた中でも充実した日常にできると信じています。なぜなら、小学校生活の中で、友達と協力し合い、思いやりの気持ちをもち、決してあきらめない粘り強さなど、学習面以外にも多くのことを学んできたからです。」と述べました。先月まで小学生だったとは思えないくらい落ち着いた態度で、聴衆を引き付ける誓いの言葉でした。歓迎の言葉は生徒会長の峯苫泰志君と副会長の町田歩未さんが、英語を交え行いました。どちらも最上級生らしい堂々とした発表でした。



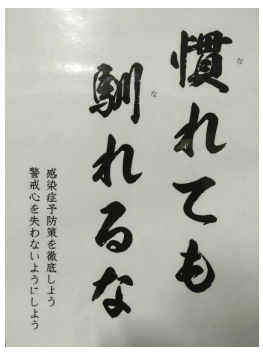
慣れても馴れるな

年度初めのコロナウイルス感染防止対策の再確認

伊敷中学校の手洗い場の窓には、左の標語が貼られています。「慣れても馴れるな」。これはコロナ禍における生活様式に慣れても、コロナウイルスに対する警戒心を忘れてはならないという意味です。（「馴」には、何も感じなくなるという意味があります）。我々教職員も、年度初め、本校が取り組むコロナウイルス感染防止対策について再確認しました。

手指の消毒やマスクの正しい着用、換気の徹底は当たり前ですが、それを毎日油断なく行っていくことが大切です。本年度も伊敷中学校は「慣れても馴れるな」をモットーに感染防止対策を行っていきます。

ご家庭でも、家庭でできる感染防止対策について、再度確認をお願いします。



あの日を忘れない

地震想定の避難訓練実施

四月九日、地震を想定した避難訓練を実施しました。生徒は教科書で頭を守りながら、慌てることなく校庭に避難しました。地震後実際に津波が予想される場合には、標高の高い玉里第一公園に避難します。

5月の主な行事予定

６日	耳鼻科検診（３年）
７日	心臓検診
８日	スケッチ大会**(体育服登校)**
１２日	内科検診(２年)
１３日	食に感謝する日 生徒総会
２０日	中間テスト（～２１日）
２７日	全国学力・学習状況調査
２８日	第70回研究公開（分散開催） 食に感謝する日
３１日	学級弁論大会

～ お知らせとお願い ～

本年度の研究公開は、コロナウイルス感染対策の観点から、三密を避ける形で実施（普通教室を使わず体育館等で公開し，参加人数も制限）いたします。

先日ご案内しました**受付や車誘導などの公開ボランティア**にもご協力いただければありがたいです。